

地 歴

44 千葉県立市川西高等学校

「 日本史演習 」	単 位 数	2 単 位
	学科・学年・学級	普通科 第3学年 1～5組

1 学習の到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	1 日本の近代、現代の歴史を国際的な視野に立って、世界との関連で学習する。 2 近代、現代の日本社会を理解し、日本の未来社会について考えるきっかけとして学習する。
使用教科書・副教材等	「高校日本史 B」（実教出版） 他資料集

1 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考（学習活の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活等との関連など）	考 査 範 囲
第 1 学 期	大日本帝国の誕生 (1) 日本の前近代社会 (2) 近世の社会と文化 (3) 欧米列強の日本接近 (4) 開国と幕藩体制の解体 (5) 日本の近代国家の形成	4 5	・江戸時代社会を概観して、近代以降の社会との比較から学習する。 ・江戸時代の幕藩体制を解体し、中央集権的な近代国家の明治政府が成立することを学習する。	・世界史との関連を重視する	第1学期中間考査
	(6) 近代産業の発展 (7) 明治の文化 (8) 近代日本の外交 (9) 日清・日露戦争と韓国併合 (10) 欧米文化伝統文化	6 7	・明治時代の政治・経済・社会文化などについて学習する。		第1学期期末
	【課題・提出物等】 授業の中で提出するプリント、ワークシート、ノート				
	【第1学期の評価方法】 考査得点を80%、課題の、提出物などの平常点を20%とする。				

第 2 学 期	大日本帝国の展開 (1) 第一次大戦と日本 (2) 政党政治の発展と恐慌 (3) 対象。昭和初期の社会と文化 (4) 昭和恐慌と日中戦争 (5) 第二次大戦と日本	9 10	・近代国家となった日本が、欧米列強国と同様にアジア大陸へ進出し、対外戦争を行うことによって、またさらに、世界大戦に参加することによって、国際社会に加わることにについて学習する。	・世界史との関連を重視する	第2学期中間考査
	(1) 戦後改革と国民生活 (2) 日本国憲法と占領政治 (3) 戦後世界の動向と日本の独立 (4) 国際社会の動向と日本の経済発展	11 12	・戦後の東西対立という国際情勢と、日本に対する占領政治、戦後政治の展開について学習する。 ・戦後の国際情勢の変化などから、戦後の日本現代史を学習する。	・世界史、政治・経済との関連を重視する	第2学期期
	【課題・提出物等】 授業の中で提出するプリント、ワークシート、ノート				
	【第2学期の評価方法】 考査得点を80%、課題の、提出物などの平常点を20%とする。				

第 3 学 期	日本国憲法と現代の世界 (5) 高度成長期の日本 (6) 石油ショックから低成長時代へ (7) 1980、90年代の日本 (8) 正解の現状と日本	1 2 3	・ 未来社会をどのように生きるかを社会構成員として思考できるように、現代の日本社会について学習する。	・ 世界史、政治・経済との関連を重視する	学 年 末 考 査	
	【課題・提出物等】 授業の中で提出するプリント、ワークシート、ノート					
	【第3学期の評価方法】 考查得点を80%、課題の、提出物などの平常点を20%とする。					

【年間の学習状況の評価方法】 1・2・3学期の評価を平均して評価する。
--

確かな学力を身に付ける のアドバイス	・「歴史は丸暗記」ということではなく、歴史に対して、興味・関心を持って歴史事象について「なぜだろう」、「原因や結果は何か」などと、事象や事柄を関連づけて、自ら考え、総合的に判断することや、客観的に観ることができることが大切である。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・授業は講義が中心となるので、まずは講義をしっかり聞いてほしい。 ・ノートは板書をただ写すというのではなく、各自が考え、理解、納得しながら取るという姿勢を心掛け、復習、反復の際に活用してほしい。 ・課題提出は、必ず提出することを心掛けてください。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	・授業（講義）をしっかり聞いているか。 ・授業中の発問に対して、積極的に発言しているか。	・課題プリント ・ノート
思考・判断	・客観的な分析に基づいて、歴史を総合的に判断できるか。	・定期考查 ・課題プリント
資料活用の技能・表現	・年表・図表・史料・資料から歴史を観ることができるか	・定期考查 ・課題プリント
知識・理解	・知識が定着しているか。 ・歴史事象、事柄を関連づけられるか。	・定期考查 ・課題プリント ・ノート

(3) 担当者からのメッセージ

日本の近現代史を詳細に学習することから、現代につながる国際的な視点を身につけ、現代の日本社会を客観的に分析し認識して、これからの時代、未来社会を創造的に描き、広い視野から自分の見方・考え方ができるようにします。
